

「ココロ合せ♡チカラ合せ」 防災ネットしょうなん

BOSAI Never Ending Tension~終わりにき緊張感

2025 (令和7) 年5月23日／号外版

自然災害に強いまちづくりをめざしましょう！



風早北部地域ふるさと協議会

富士山噴火による首都圏の影響は？

大規模地震をはるかにこえる社会生活へのダメージが長期に及び、最悪、私たちは飢餓状態をも体験せざるを得ないケースが想定されます。

富士山の大規模噴火が長期に及んだ場合¹、高度に発達した都市インフラが甚大な被害を受ける恐れがあります。

過去 5,600 年間で富士山は 30 年に一度噴火をしていましたが、1707 年の宝永の大噴火以降は、これまで約 300 年間はほぼ沈静化しています。宝永の大噴火



は 16 日間続きましたが、政府はこの噴火規模を基に、降り注いだ火山灰は、神奈川県で 30 センチ以上、都心も 10 センチの火山灰が積もると想定しています。

火山灰による人体への直接の影響は、屋内にとどまる限りは少ないとされていますが、その後の降雨でその重量は約 5 倍に膨れ上がり、降灰が 30 センチ積もれば家屋が倒壊する恐れが高まり、より頑丈な建物への避難をほとんどの住民が余儀なくされます。

でも、私たちの住む柏市には、住民が十分なスペースに避難できる屋内施設は各地で到底足りていませんし、市に解決を託されたこの課題は十数年以上経過した今も一向に改善の兆しはありません。

さらに、交通インフラの機能停止で物流が長期間停滞することで、各地の食料在庫が枯渇、さらに、電線等施設の劣化での停電が継続し、飲料水供給施設の故障や水利ろ過機能も低下し、飲み水にも困窮する事態が十分想定されます。まさに飢餓状態が私たちの生活を襲ってくるのです。

私ども風早北部地域ふるさと協議会は、昨年 12 月に市長あて提出した要望書の中で、柏市地域防災計画に火山噴火災害向け対処策の一層の充実を求めています。来る 5 月 28 日には、柏市からその回答を受ける予定ですが、市がこの問題を真剣に受け止めるよう、その回答内容に期待したいと思います。



各世帯で最低でも 10 日～2週間分の飲料水と食料を備蓄しましょう。

¹ 気象庁が本年4月にとりまとめた「広域火山灰降灰対策」にかかわる報告書を参考にしました。HP 掲載版では気象庁が公表しました検討結果の概要資料(スライド)2枚を次頁以降に添付しましたので、ご一読ください。